

平成28年度第6回
大阪府公立大学法人大阪府立大学評価委員会
議事要旨

- 1 日時 平成28年12月19日(月)午後3時00分～
- 2 場所 大阪赤十字会館 401会議室
- 3 出席委員 喜多委員長、桑原委員、篠藤委員、兵庫委員、山崎委員
- 4 議事内容

○第3期中期計画(素案)について

法人から第3期中期計画(素案)について説明があり、評価委員会としてこれをチェックする観点についての調整が行われるとともに、次回委員会での審議に向けて確認しておくべき事項についての質疑応答が行われた。

<主な発言>

- ・評価委員会としてチェックする観点は次のとおりとする。

【全体として】

- ①第2期中期計画の総括の中で示された今後の方向性に合致しているか
- ②第3期中期目標に沿ったものになっているか

【個別項目について】

- ③実現可能であって、成果が期待できる計画になっているか
 - ④次年度につながる具体的な評価ができるものになっているか
- ・海外への留学支援事業を強化することだが、原資は。
⇒これまででは保護者からの資金が中心であったが、基金も活用できるようにした。
詳細を詰めるのはこれからであるが、十分カバーできる制度を検討中である。
 - ・女性教員比率21%という目標の根拠は。また、具体的な実現策は。
⇒女性研究者支援に関する補助金を受けており、その中で約束した数字である。
今年から各部局に女性教員の採用に関しての計画の提出を求めているほか、成果のあった上位3部局に対してインセンティブの付与等を行う。
 - ・学生の学習支援というところで「自主学習の環境の向上」とある。具体的にどのようになれば成果が上がったと考えるのか。
⇒卒業時に、入学時に比べてどういったことが伸びたと考えているかというアンケートを実施しており、その中で、アクティブに自分が勉強できるようになったかどうか

か自己評価をさせている。

- クロスアポイントメント制度に関する記述で、「流動性が高い」ということは首を切りやすいという印象を受けてしまうが、如何。

⇒出向や移籍と異なり、府立大学で70%、他機関で30%、といったように分ける形である。100%府大に来てもらうことが困難な優秀な教員に来てもらったり、よそへ移りたいという教員に半分は府大に残ってもらうということを可能にするもので、流動性の反対の側面もあるので、表現を工夫することとしたい。

- 全般的にカタカナ表記の言葉が多く、一般の方は意味を知らないと思われる言葉が大半である。この計画を一般の府民向けに公表するに当たっては、用語集が必要では。

⇒用語集を作成する。

以上